

巻頭言

「ひとと自然が響き合い

未来へ奏でる人道のまち」



八百津町長 金子 政則

八百津町は、岐阜県の東南部に位置し、北側に飛騨川、南には木曾川が流れ、海拔120m前後の河岸段丘と海拔500mから600mの高原に集落が点在する中山間地です。

当町は、昔から舟運により栄えた歴史を有しており、農業をはじめ工業や商業の振興により発展してきました。また、人道の丘「杉原千畝記念館」や「五宝滝」、勇壮なだんじり祭、糸切りからくりの久田見祭など特色ある観光・交流資源を有しています。

現在、「命のピザ」をはじめとする杉原リストのユネスコ「世界の記憶」の登録に向け、町全体で総力を挙げて取り組んでいます。今後も杉原千畝氏の『命の尊さ』『平和の大切さ』といった人道・博愛精神を国内外に発信し、交流人口の増加を推し進めていきます。

また、昨年度には主要地方道多治見白川線「やおつトンネル」が開通し東海環状自動車道可児・御嵩ICへのアクセスが良好となりました。

今後、経済・流通の活性化及び新規参入企業の増加や移住、定住など人口の定着が期待できます。

さらに産・学・官連携による新たなエネルギー事業に取り組んでいます。地域資源を活用した再生可能エネルギーの推進など新たなまちづくりやビジネスモデルを創造できる環境が生まれつつあります。

建設事業では、新丸山ダム建設事業が本格化します。大規模なダムのかさ上げ工事により、流域の防災力やインフラ強化につながると同時に新たな観光資源としても期待できます。

一方で、今後ますます加速していく人口減少問題、災害対策、多様化する町民のニーズに対応した新たなまちづくりを進めるため、第5次総合計画を策定しました。本計画では、まちの将来像を「ひとと自然が響き合い未来へ奏でる人道のまち」とし、町民と行政が協働してまちづくりを進めます。基本目標のひとつである「笑顔で寄り添う福祉と健康のまち

づくり」のもと、本年度「八百津町データヘルス計画」を策定し、年々増大する医療費の適正化を図りながら、町民の健康を守り、負担を減らすためにPDCAサイクルに基づく保健事業の実施及び評価を実践していきます。

当町の平成28年度一人あたりの医療費は38万5748円と県内でも高い水準にありますが、厳しい財政状況の中、人間ドック費用の一部助成や特定健診の受診勧奨、特定健診受診者への保健指導等を積極的に行い、疾病の予防、病気の重症化の防止に努め、医療費の抑制に取り組んでいます。

平成30年度からは、医療保険制度の安定的な運営を可能とするため、新しい国保制度が施行されます。来年度からの保険運営が円滑に移行できるように幾度も検討が行われてきました。今後も誰もが安心して暮らせる社会保障の基幹のひとつである国保制度となることを期待しております。

（八百津町のあらまし）

DATA (平成29年9月1日現在)

- 面積 128.79k㎡
- 世帯数 4,332世帯
- 人口 11,321人
- 国保加入世帯 1,712世帯
- 世帯加入率 39.52%
- 国保加入者数 2,893人
- 国保加入率 25.55%

町章



八百津町の頭文字「八」の字を図案化。「八」を円形とし町民の平和を示し空白上部の鋭角をもって将来への躍進を象徴したものである。

町の木 マツ



町の花 ササユリ

